

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	文章表現基礎講座(Basic Course of Sentence Expression)	授業コード	A030869
担当教員名	山本 義史		
配当学年	1	開講期	後期
必修・選択区分	必修	単位数	2
履修上の注意または履修条件	「基礎学力講座1・2(国語)」を履修していることが望ましい。(教科書は同じ。)		
受講心得	授業に教科書は必ず持参してください。ノートを用意し、国語辞典(電子辞書も可)も常に携帯するのがよろしい。授業の予習や復習のために図書館や人間力育成センターの図書を積極的に利用しましょう。欠席や遅刻のないように心がけること。		
教科書	徳弘康代監修・著『語彙マップで覚える漢字と語彙』(Jリサーチ出版)		
参考文献及び指定図書	『三省堂国語辞典 第六版』(三省堂)、江守賢治(著)『漢字筆順ハンドブック』(三省堂)、朝日新聞出版(編)『日本語きほん帳』(朝日文庫)、朝日新聞出版(編)『らくらくマスター 日本語常識ドリル300問 漢字編』(朝日文庫)。		
関連科目	社会参画入門、社会参画実習1、基礎学力講座1・2(国語)、英語1・2、情報リテラシー1・2		

授業の目的	基礎的な国語(日本語)力はあらゆる学習分野で求められる重要な要素です。大学初年度における国語(日本語)教育は4年間の勉学生活の土台を提供するとともに、卒業後の社会人がもつべき一般常識を養う側面をも有します。1年次前期の「基礎学力講座1・2(国語)」(選択)に引き続き、後期のこの科目(必修)は現代の文章語の読解力をさらに高めて豊かにすることを目指している外国人留学生の日本語学習の手伝いをするためのものです。それはまた日本語能力試験の受験準備にもなるでしょう。
授業の概要	中級後半から上級レベルの日本語学習者のために作られた教科書によって外国人留学生の日本語読解力の向上を目指します。授業では教科書の後半を取り扱い(前半は前期の「基礎学力講座1・2(国語)」で用いました)、1つの課に2回の授業を当てて進みます。内容は現代日本の文章語で、本文は主として小説から取られています。教科書の内容に解説を付け加えて受講者の理解を高める一方で、しばしば日本語本文を学生に音読させて、発音やイントネーションの改善を図ります。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：授業の進め方 年間の学習に関するオリエンテーション。授業の進め方、出欠の取り方、遅刻・早退の取り扱い、試験の行い方、授業中の発表の取り扱い、質問の受け付け等について説明し、成績評価の方法にも触れます。	ワークノート
第2週：第8課 体／身体(1)	ワークノート
第3週：第8課 体／身体(2)	ワークノート
第4週：第9課 公共サービス・イベント(1)	ワークノート
第5週：第9課 公共サービス・イベント(2)	ワークノート
第6週：第10課 病気・病院／疾病・医院(1)	ワークノート
第7週：第10課 病気・病院／疾病・医院(2)	ワークノート
第8週：第11課 学校・教育(1)	ワークノート

第9週：第11課 学校・教育(2)		ワークノート
第10週：第12課 学問・研究(1)		ワークノート
第11週：第12課 学問・研究(2)		ワークノート
第12週：第13課 就職(1)		ワークノート
第13週：第13課 就職(2)		ワークノート
第14週：第14課 貿易・取引(1)		ワークノート
第15週：第14課 貿易・取引(2)		ワークノート
第16週：期末試験		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考	授業では座席指定を行います。毎回決まった席に着いてください。出欠は着席状況によって確認します。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	「日本語」「日本文化」「日本の自然」関心をもちます。
【知識・理解】	日本語の理解力や運用能力を高めめます。
【技能・表現・コミュニケーション】	日本語による表現能力やコミュニケーション力を高めめます。
【思考・判断・創造】	日本語による思考能力を高めめます。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		45点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	55点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	